

令和3年度

松山看護専門学校 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、松山看護専門学校の令和3年度自己点検・自己評価報告書に対する学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

令和4年6月30日

学校関係者評価委員

委員長 渥見 秀夫

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の基本方針

本校の自己点検・自己評価活動は、厚生労働省が示す「看護師等養成所自己点検・自己評価指針」に則り、8 カテゴリー・41 下位項目・129 評価項目にわたり、全方位的に3年周期で行う「学校関係者評価」と、当該年度の学校運営目標に対して行う「学校関係者評価」があり、本報告書は後者によるものである。

3 学校関係者評価のポイント

- 1) 自己評価結果の内容の適切性
- 2) 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策の適切性
- 3) 学校の重点目標や評価項目等の適切性
- 4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みの適切性

4 学校関係者評価委員名簿

種 別	氏 名	所 属
関係業界	渥見 秀夫 (委員長)	聖カタリナ学園高等学校前校長
〃	杉野 洋介	愛媛県社会福祉協議会常務理事
地域有識者	正岡 いづみ	松山市番町公民館館長
保護者	橋根 勝義	医師
卒業者	高垣 杏紗	看護師

【前年度の主な改善提案への学校の対応とそれに対する評価】

1 改善提案

- 1) 教育内容の改善のため、卒業生の就業施設の教育担当者にアンケート調査を実施すること。
- 2) 受験者増に役立てるため、外部環境分析等の市場調査を実施すること。
- 3) 専門学校をアピールするため、その強みを明確にしたうえで将来構想を検討すること。

2 令和3年度の学校の取り組み

「令和2年度学校関係者評価報告書」の改善提案を速やかに学校運営に活かすため、令和3年7月7日に「臨時学校運営委員会」（学校長以下20名の委員）を開催、改善提案を、令和3年度の学校運営の「重点目標」とし、以下の取り組み方針を定めた。

- 1) 目的：本校の将来構想の検討、協議
- 2) 「看護学校将来構想検討委員会」の活動として位置づける。休止中の同委員会を再開、2～3か月に1回の会議開催予定とする。
- 3) 外部人材の学識経験者（愛媛大学教育学部教育・学生支援企画室室長）を選出、助言を求める。同委員との第1回会議の際、“創立120年はブランド力である。学校存続の理由等を分析する視点からも示唆が得られる”との助言を得た。
- 4) 活動期間：令和3年7～10月に調査準備、11～12月に調査、1～3月にまとめ、4～5月に令和4年度の学校運営に活かす。
- 5) 調査方法：外部業者に委託（課題発見/戦略立案のためのマーケティングリサーチ）

7月8日から12月13日まで、外部業者とオンラインで協議を重ねていたが、新型コロナウイルス感染症拡大による就業施設への訪問自粛と経費等から年度内調査を断念、令和4年度への継続課題とした。再開までに教職員、在学生双方がとらえる本校の強み、弱みを集約予定である。

3 学校関係者評価

- 1) 将来構想はすべての面において基礎となる問題であり、早急に方向性を示す必要がある。今後の医療界の状況を把握し、明確な将来構想を策定してもらいたい。
- 2) 将来構想の基礎資料となる卒業生調査については、まずは簡便に、学校主体の郵送方式などで試行してみてはどうか。
- 3) 卒業生の90%以上が県内医療機関等に就職していることは高く評価できる。地元密着型の本校の特徴を踏まえ、様々な場で将来構想を検討してもらいたい。

【総評】

これまで、新型コロナウイルス感染症拡大の中、書面による開催が続いていたが、今年度は評価委員が一堂に会し、学校の設備等の現状を視察したうえで、意見を交換することができた。各委員による評価を委員長責任において集約することとした。

全般的に現状や実績を踏まえた適切な自己点検・自己評価がなされており、良好な学校運営である。受験者数、教員数の確保等が、それを端的に物語っている。

学校の現状から今後の展望に至るまで、自己評価により、問題点を認識し、対応策まで検討されている。学校運営に関して、特に問題となる事項はなく、今後の発展が期待される内容である。

また、新型コロナウイルスの影響で教育環境が厳しい中、学生が主体的に学べるよう創意工夫され取り組まれていることは高く評価できる。特に、電子教科書の採用や愛媛十全医療学院と令和2年度に締結した「専門職連携協定」に関する協同学習を実践に移すなど、前向きな取り組みが行われていることを高く評価する。

令和3年度の看護師国家試験は残念な結果だったが、当該学生に固有の諸事情、新型コロナウイルス感染に伴う学習環境の流動化など、当該年度に特有な原因の作用も十分に考えられる。気落ちすることなく、謙虚な反省の上に、国家試験合格率向上のため、個別に、短期的な目標・課題を明確化していくことで、その積み重ねとしての学習習慣づくりを促していく指導が必要である。

また、キャリア支援の面からも、看護職としての進路選択に適切な助言をしていく必要があると思われる。

令和4年度から始める「見てこんけん実習Ⅰ」によって、自ら地域の現状を把握し、ニーズに合った看護を自主的かつ具体的に考えていくことにより、3年制専門学校の長所をきちんと活かし優秀な学生の確保に努め、地域社会に貢献できる人材の育成、ひいては医療界の発展に寄与する学校であり続けることを願う。

【運営目標別評価意見】

(目標)

I 教育成果の向上

1 教育内容と方法の充実を図り、看護師国家試験合格率100%を維持する。

○国試合格率維持・向上のためには、学生の学習習慣の確立が必須。そのためには、個別に短期的な目標・課題を具体化したうえでの指導が必要である。

○今回、過去最低の合格率(90%)となったことは残念であったが、原因の詳細な分析

を踏まえ、反復学習の強化をポイントに「リベンジ戦略」を早速稼働させたことは評価したい。今後の指導方法等の確立に期待する。

- カリキュラムは年々充実してきているが、4年制看護大学と比較し詰め込みにならないような配慮が必要と考える。
- 令和3年度の悔しさと課題の残る中、問題分析により、“反復学習”を強化し臨地実習での学びの中で、個々の学生の持つ能力や主体性を育てる授業をすることにより、今後の100%達成につながっていくものとする。
- コロナの影響で授業や実習の方法が変更になっているため、学生や教員間での意見交換を行いながら現状把握に努めてほしい。

(目標)

I 教育成果の向上

2 新カリキュラムを完成させる。

- 自己評価は低いですが、令和4年度1年生のカリキュラムが完成したことは評価できる。よりよいカリキュラムにするための評価・分析に取り組んでいただきたい。
- 今年度からの試用になるようなので、適宜改善することが肝要と考える。卒業生の就業調査は現在中断しているようだが、卒業生からの意見は重要であり、カリキュラムの改善に役立つと思われるので早期の復活を望む。
- 新カリキュラムが部分的運用であることから、更なる評価、修正を行うため協議を重ねる必要がある。
- 専門職連携を行うことで他職種について知り、就職後の多職種連携につながることを期待する。

(目標)

I 教育成果の向上

3 社会人基礎力を経年的に育成する。

- 積極的な研修の実施により、学生の主体性や発信力の強化につながっていると考える。
- 知識・技術は重要であるが、その前提として高い社会人基礎力が必要であることは言うまでもなく、今後も継続して基礎力の育成・強化に努めてほしい。
- コロナ禍の中、研修・実習が制限される状況が3年目を迎えることとなった。今後大幅な規制は無くなるものと思われるが、コロナ禍で始まったリモート学習を活用し、制限下でも十分な基礎力が養えるようなシステムが必要と考える。

- 医療・看護関係の諸資料（新聞記事等）を掲示したりして、学生の社会的な関心喚起を図りたい。

（目標）

I 教育成果の向上

4 卒業率 90%以上を維持できるように学生支援の充実を図る。

- 現代社会の学生が抱える問題の早期発見のために、一人一人の学生と向き合う場の提供が必要であるなか、定期的な面談や、いろいろな研修を実施するなどの対応は評価できる。
- 学生が考える強みとして教員との距離が近いことが挙げられているため、今後も相談しやすい、声をかけやすい環境を維持してほしい。
- 休学・退学が減少するよう学校全体で取り組まれていることは十分評価できる。課題に挙げられているように、学生が相談しやすい環境整備を進めていただきたい。
- 入学後に看護職に向いていないと感じる学生は、一定頻度で存在すると思われる。卒業率にこだわるのではなく、学生を適切な社会人に導くのが重要と考える。看護職の適性を判断し、もっと広く学生支援をすることが必要と考える。
- 現下の社会状況・学習状況等から、ある程度の退学者が出てしまうのはやむをえない。

（目標）

I 教育成果の向上

5 教員の資質向上を図る。

- 法定数以上の教員が確保できていることは評価できる。教務事務の導入などにより教員の負担が軽減され、研究環境が改善されることを期待する。
- ipad や e ラーニングの準備で大変だったようだが、一度完成すると、今後は大幅に時間短縮ができるものと思われる。教員の確保もできているようなので、今後は教員の働きかた改革に取り組んでほしい。
- アンケートでの最上級生の意見は尊重すべき。
- 教員数の確保は、学校が抱える大きな問題であるが、業務のスリム化に取り組み、いかに負担を減らすかが今後の課題となる。

(目標)

II 学校運営の安定

1 受験者数を確保する。(受験倍率3倍)

- ホームページをタイムリーに更新することを継続してほしい。
- 学校ホームページの充実により、引き続き受験者数の確保に努めていただきたい。
- 受験者数の確保には、いかにアピールできるかが大事であると考えている。それを踏まえて、現コロナ禍のなか、学校訪問など地道な努力や、ホームページの再検討など取り組むなどしたことが、これからの結果につながると思う。
- 卒業生・在校生の意見も活かした対策を講じたい。

(目標)

II 学校運営の安定

2 働きやすい職場づくりの促進を図る。

- 教職員の心身の健康・生活の保障は、常に第一義に配慮したい。
- 働き方改革が言われているなか、全員年5日以上の有給取得は評価できる。今後さらなる働きやすい職場環境の実現に向けて、業務の改善などに取り組めばいいと思う。
- 適切な年休取得獲得に継続的に取り組んでおり評価できる。今後はやはり、ICT利用による業務負担軽減にかかると思われ、早急な対応を検討してほしい。
- 設置者である松山市医師会との連携のもと、より一層教職員のワークライフバランスの向上が図られることを期待する。

(目標)

III 将来構想

1 看護基礎教育の動向を把握して、第1看護学科の今後の在り方について検討する。

- 卒業生の90%以上が県内医療機関等に就職していることは高く評価できる。このような本校の特徴を踏まえ、様々な場で将来構想を検討していただきたい。
- 将来構想について、運営目標をみた限り、良い方向に向かっていると思う。今後、新たな問題点など見つけて、即座に対応する体制を築いて、一人でも多くの看護職員を輩出できるように努めてもらいたい。
- 将来構想はすべての面において基礎となる問題であり、早急に方向性を示す必要がある。今後の医療界の状況を把握し、しっかりとした将来構想を決めなくてはならな

い。看護大学が台頭する中、3年生看護専門学校の真価が問われる時期だと思われる。

○さまざまな段階・場面での発言を集約していく方向で共通理解に達したい。